

# 地域連携室便り

愛媛県立中央病院  
地域医療連携室

No. 13 (2021年6月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)  
089-947-1165 (後方連携)  
FAX 089-987-6271



ミヤマキリシマ 写真提供：三木 均 室長



梅雨冷えの日が続いておりますが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今回地域連携室便り No. 13 6月 を刊行致しました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見を頂ければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。

この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

## 今回の内容

- ① 各外来受付の運用変更のお知らせ . . . . . 山之内裕美 稲田富美香
- ② センター長ご挨拶 . . . . . 名和由一郎/馬越健介
- ③ 専攻医からみた放射線科の業務～診断、IVR、治療の3つの部門に分けて～ . . . . . 喜田有佳里
- ④ 愛媛県立中央病院 新型コロナウイルスワクチン接種対策班 班長を拝命して . . . . . 佐川庸
- ⑤ 漢方コラム Part 4 . . . . . 山岡傳一郎
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

## ① 各外来受付の運用変更のお知らせ 外来診療部門 看護長 山之内 裕美 稲田 富美香

昨年からの感染予防対策として、当院でも様々な取り組みを行っています。今回は外来での取り組みについてご案内させていただきます。

今回、新たに【自動受付システム】を導入しました。これまでスタッフが行っていた患者さんの<到着確認>を、患者さんが受付票のバーコードを【自動受付システム】にかざすだけで、<到着確認>ができるようになりました。

また、以前より行っている【メールによる受診の進行状況を確認できるシステム】は、

患者さんが受付票にあるQRコードを携帯電話で読み取る、あるいは、当院のホームページ【メールで確認外来お呼出状況】に当日の受付番号を登録することで、<進行状況>を確認することができます。ご利用頂くことで、診察までの時間を院内外で過ごして頂くことができます。

私たち外来スタッフは、患者さんが安全で安心して通院できるように、環境を整えていきたいと考えています。今後ともよろしく願いいたします。





## ②センター長紹介

臨床研修センター長 名和 由一郎

2021年4月1日付で、臨床研修センター長を拝命いたしました。当院はかつて私が医者となった1992年当時でも、たくさんの経験が積める研修病院として有名な病院でした。私たちの時は自分で研修病院を決めることはできず、ここで研修した同期を尊敬の眼差しで見ていることを覚えております。

2004年の新臨床研修制度が始まる前より、当院では自治医科大学出身の研修医を中心にスーパーローテーションを行うシステムがあり、時代を先取りしていた先進的な病院でした。私が、本格的に研修医教育に携わるようになったのは2015年以降で、県内に残る初期研修医を増やすために、当院の受け入れる人数を増やしていく時期で、かつ、それまで研修医教育の長らく携わっておられた山岡傳一郎先生が県立新居浜病院に転勤となった時期でした。研修委員会のキャパシティの限界で、研修医教育システム自体を見直す必要がありました。“研修医教育とは何なのか”を掴むために、原田先生（現副院長）や濱見先生（元救命救急センター長）らの研修委員会メンバーと共に、有名な研修施設である聖路加国際病院、東京医療センター、国立国際医療研究センターを見学訪問したり、臨床研修研究会にも参加したりして、積極的に情報を得るようにしました。全国レベルの臨床研修を行うために、JCEPという外部評価の受審もおこなうことを目標とし、説明会にも赴き、プログラム責任者講習会にも参加しました。辿りついた結果、当院には、熱心な指導医がたくさんいますが、研修医の自主性に任せていた所も大きく、システムが未熟でガラパゴス化していました。それでも、希望する学生は右肩上がりに膨らんでいき、2016年には協力型も併せて過去最高の一学年30人に達しました。

ところが、その年、衝撃的な出来事がおこることになりました。救急体制の変更があり、当院は輪番病院から外れ、2次の輪番病院をサポートするという立位置になったのです。この変更は病院全体には負担が減りましたが、研修医には一番の魅力であった救急患者の経験ができなくなったのです。

その翌年の2017年には恐れていたことがおこりました。当院のマッチングの管理型研修医枠の定員15名のところが5名という史上最低の最悪の結果となったのです。自治医大もその年は1名で、徳大協力型3名と愛大協力型3名でなんとか11名に達しましたが、研修委員としては大変ショックで、我々の病院は救急しか魅力はなかったのかと考えさせられる結果でした。



研修医獲得に我々研修委員会は相当の危機感を持ち、救急だけを売りにする事から研修施設としての全体の質をあげる事に方向転換することになりました。各診療科内での到達目標を統一し、ローテーション前に目標をたて、終了時には、その評価をきちんとおこない、フィードバックを行うようにシステムの変更をおこなっていきました。指導医側の負担も多くなり、そんなことで研修医が本当に育つのかというお叱りも受けましたが、全国レベルの研修病院になるためには必要なこととして、ご理解してもらいました。また、研修医勉強会も1年を通してテーマを決めて、研修医が取得すべき身体診察法、手技系、臨床推論、ACP、緩和ケア等をレクチャーするようにしました。また、病院のシステムやチーム医療も理解してもらうために、委員会、チームにも参加させるようにしました。このような改革にて、希望する学生も徐々に増えていき、あの落ち込みから3年目にはフルマッチに戻すことができました。昨年度また研修制度の変更があり、外科などのローテーションの再必須化、外来研修必須化、オンラインでの評価等が付け加えられ、即座に対応をするようにしております。また更に追い打ちをかけるように、新型コロナ感染拡大の影響による学生実習中止にて、当院のアピールする場が消滅し、研修医獲得に向けて再度ピンチに陥ることになりました。それに対して、広報委員会と共同して、病院HPに特設ページを開設、病院紹介の動画を作成、オンラインによる病院説明会の開催などを実施し、病院の雰囲気がわかる様に迅速に動き、基幹型はフルマッチに達することができました。このような環境の大きな変化に迅速に対応でき、ピンチをチャンスに変えることができたのは、改善推進室で高石先生（元副院長）や原田先生（副院長）らに学んだ結果であり、職員係やその他の協力して頂いた皆さんのおかげだと思っています。

新型コロナ感染の診療について、日本の医療体制の脆弱さが露呈され、プライマリケアができる医師の存在が少ない事も浮き彫りとなりました。今では全国的に、診療科に関わらず、多くの医師が診療にあたっていると聞いております。基本的な診療能力を持ち合わせ、社会に貢献し、『自分で考えて行動できる』医師を多く育成していくことが我々の使命だと思っております。

最後になりますが、臨床研修センターは初期研修医の育成だけでなく、専門研修のマネジメントや職員全体の研修についても関わる部署となります。職員全体の研修についても、新人教育、キャリアアップ研修について点検し、一元化していくことを計画しており、職員満足度を高めることで、愛媛県立中央病院が“サステナブルに“良質な医療”ができる体制を築いていきたいと考えています。





## ②センター長紹介

### 救命救急センター長 馬越 健介

この度、濱見原先生の後任として救命救急センター長・災害医療センター長を拝命いたしました救急科の馬越健介（うまこしけんすけ）と申します。愛媛県の旧越智郡島嶼部の出身で、2002年に愛媛大学を卒業し愛媛県内外で救急医療に従事してまいりました。まだまだ修行中の若輩者でございますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

当院高度救命救急センターは、全診療科の協力の下、年間約2700件を受け入れています。病院前医療においては、消防機関と連携したドクターヘリやドクターカーによる早期医療介入を行い、初期救命診療においては、例えば多発性外傷では、外科系各科、放射線科、麻酔科と連携して緊急治療を行い、入院後の集中治療では各専門診療科および看護部、薬剤部、リハビリテーション部、臨床工学部、検査部、放射線部、栄養部等、多職種と連携して治療を行っています。救急重症病態のHUB的な役割を担い、重篤な状態であっても、食べること（病態に適した栄養管理）、動くこと（リハビリテーション）、寝ること（鎮痛、鎮静）を早期から提供し、急性期から回復した後の生活を見据えた戦略をたて、病院前医療から初期救命診療・集中治療へと多職種のシームレスな連携を目指し、安定した救急医療を提供できるよう精進していきたいと思っております。

また、当院は基幹災害拠点病院の役割を担っております。東南海・南海地震等の大災害に備え、愛媛県下の災害拠点病院、医師会、自治体、関係機関と協力し、愛媛県全域の災害医療体制の強化に取り組んでいます。また、愛媛県には原子力発電所があり、原子力災害医療の体制整備も必要です。福島第一原子力発電所事故を教訓にし、原子力災害医療体制のあり方を定期的に検討しています。

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、当院救命救急センターICU（救命ICU）でも散発的に重症患者を収容してきましたが、愛媛県の重症患者の増加に伴い、2021年4月には救命ICUを重症COVID-19専用病床へと変更して対応いたしました。そのためCOVID-19以外の重症患者の受け入れにおいて、集中治療室・一般病棟など院内多部門のみならず、松山赤十字病院をはじめすべての救急輪番病院・医師会の先生方の多大なご協力によって支えられているところであります。また予定治療の患者様にもご協力いただいております。感謝の念に堪えません。今後も、流行状況に応じて大幅な診療体制の調整が必要となり、国難ともいえる状況ではありますが、この禍を乗り越えるためには施設間連携、地域連携が一層重要と思われまますので、今後ともご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## ③専攻医からみた放射線科の業務 ～診断、IVR、治療の3つの部門に分けて～

放射線科 専攻医 喜田 有佳里

愛媛県立中央病院の放射線科でお世話になり始めて早1年が経ちました。今回、当科の紹介をご用命賜りましたので、恐縮ながらこの1年間で知り得た範囲で、当院の放射線科について紹介させていただきます。

当院の放射線科は、院内各科や地域の病院の先生方からオーダーを受けた患者さんに対し治療を行っています。部門としては、大きく分けて画像検査を行い画像上での診断をする放射線診断部門、血管内治療が必要な患者さんへの治療を行うIVR部門、放射線照射が必要な患者さんへの治療を行う放射線治療部門の3つの部門に分かれています。

まず、放射線診断部門では、オーダーを頂いた患者さん全員に適切な検査が行き渡るように検査の前に撮影方法を検討します。例えば、造影剤を使用する場合は撮影時相について、MRI撮影の際は必要なシーケンスについてといったふう입니다。撮影する放射線技師と相談し、患者さん全員へ適切な撮影時間を取ることが難しくなりそうな場合や、目的とされている疾患を観察するために不必要と推定される撮影時相やシーケンスのオーダーは、撮影方法を変更する場合があります。また、患者さんのアレルギー歴、腎機能、内服薬、食事・カフェイン摂取時間をチェックし、本当に安全で有効な治療を行うことができるのか、患者さんの同意が事前に主治医から得られているのかを確認します。必要に応じて主治医に立ち会いを依頼したり、やむを得ず造影剤の使用を断念しなければならない場合があります。このようにして考えたオーダーをもとに放射線技師が工夫を凝らしながら画像を撮影し、完成した画像を仮確定医、確定医のダブルチェックのもと読影しレポートを完成させます。

IVR部門では、診断目的、止血目的、腫瘍の制御目的、血管を拡張する目的で、透視下で実際の血管の様子を見ながら、各科の医師と相談しつつ手技を行います。また、それぞれの手技に対して適切なデバイスのスムーズな使用を可能とするために、専門の医師は日々勉強会へ参加し、知識と技術のアップデートをしています。肝細胞癌に対する治療については、毎週、消化器内科、消化器外科の医師とカンファレンスを行い、治療を受けられる患者さんごとに、使用する薬剤、塞栓剤、塞栓物質、塞栓部位の検討をしています。また、血管内治療とは別に、CTガイド下に腫瘍の性状を調べるための生検や膿瘍に対するドレナージも施行しています。



放射線治療部門では、紹介された患者さんに対してまず放射線治療の概要について説明し、主治医の方針に沿って、患者さんと治療スケジュールを決定します。その後、必要に応じて患部周囲の体勢を保持する固定具を作り、放射線治療計画用CTを撮影し、その画像を元に放射線治療計画装置で放射線治療計画を施行します。作成された治療計画は、放射線技師が、実際に当院の機械を使用して患者さんに正確な線量を当てることができるのかを検証します。このようにしてしっかりと準備を整えたうえで、実際の患者さんへの治療を開始します。頭頸部癌や前立腺癌などに施行される強度変調放射線治療では、放射線治療計画や検証に1~2週間程度の期間がかかるため、計画的に治療のスケジュールを立てることが大切となってきます。

一つ目にご紹介させていただきました放射線診断部門は、地域の先生方からご覧になって、地域連携室を経由して対応させて頂いておりますのでなじみ深いかもしれません。一方、IVR部門、放射線治療部門は、当院の各科の先生を介して対応しておりますので、あまり接点のない部門かと思います。検査技術、治療内容が日々発展する中、これら3部門で力を合わせて、放射線科全体が、直接的にも間接的にも、微力ながら地域の先生方のお役に立てるよう、尽力していく所存ですので、今後ともどうぞ、宜しくお願い致します。



## ④愛媛県立中央病院 新型コロナウイルスワクチン接種対策班 班長を拝命して

副院長 佐川 庸

当院は「第2種感染症指定医療機関」に認定されており、3月8日から職員対象として新型コロナウイルスワクチン接種が開始されましたが、それに先立って、“～班長”に任命されました。

まずは、先行接種医療機関である「愛媛労災病院」に見学に参りました。受付⇒問診⇒接種⇒観察⇒接種記録書受け取りの流れと各部署での注意点や工夫点などを丁寧に説明して頂きました。

持ち帰って、看護部・事務方などと打ち合わせを行い、いざ、接種開始となりました。職員約1,800名+院外の医療関係者に対し（6月9日現在最終段階ですが、継続中）、幸いアナフィラキシーショックを経験することはありませんでした。職員は接種後15分間、院外の方は念のため30分間の観察をさせて頂きました。迷走神経反射や皮疹を含め、1～3名/180名程度の割合で体調不良を訴えられ、当院総合診療科にて対応致しました。副反応に関しては、2回目に多く（別添）約3割の方に発熱や倦怠感がありました。報告のように若い女性に多い傾向がありましたので、接種後の女性から発熱の報告を受けた時には「若い証拠ですよ」とお答えすると“にこっ”と返されます。ワクチン供給、接種スタッフ・場所の確保など様々な問題が発生する中、わが愛媛県のスピードはワーストから始まりましたが、徐々にランクを上げています。mRNAワクチンに対する副反応や長期的な副作用など、不安は拭いされないという考え方もあろうかと思いますが、発症予防、重症化予防に加え感染予防効果も報告されるようになり、感染予防対策、人流の抑制そしてワクチン接種がこの感染症を抑えるための3大重要策であることは否めないと思います。

当院の役割として「集団接種会場への出務」の依頼がありました。当初より、（開業の先生方が手薄となる）土曜日の午前中を中心にお手伝いさせて頂くよう申し出ました。10人単位で医師の派遣依頼を受けましたが、7月末までの繰り上げ接種計画に対応すべく、さらに10人、15人と活躍の場が広がっています。当院院長の「ワクチン接種業務への出務は我々の使命である」という考えの元、病院あげて協力すべきというスタンスで対応してまいる所存です。第4波の後には、第5波が来るのでしょうか？松山市保健所長、松山市医師会事務局長はともに同級生で、1年前から「コロナ禍が落ち着いたら是非慰労会をしよう」と会話を交わしている、今日この頃です。

## 新型コロナウイルスワクチン接種に伴う副反応（医局）

|  | 1回目               | 2回目   |
|--|-------------------|---|
| 接種者数                                     | 269名              | 260名  |
| 副反応<br>発熱（ $\geq 37.5^{\circ}\text{C}$ ） | 1                 | 61（23.5%）                                   |
| 強い倦怠感（自己申告）                              | 5                 | 75（28.8%）                                   |
| 皮疹                                       | 0                 | 4   |
| その他                                      | 5<br>（頭痛、筋肉痛、関節痛） | 37<br>（頭痛、筋肉痛、関節痛、下痢、<br>上気道炎症状、腋窩リンパ節腫脹など） |
| 特別休暇取得者数                                 | 1                 | 8   |



臨床のトピックや診療に役立つ情報などお届けします！

## ⑤「漢方コラム Part 4」

漢方内科 主任部長 山岡 傳一郎

～私たちは、新型コロナから何を学ぶのだろうか～



東日本大震災から10年、私たちは、震災から「想定外を想定すること」を学びました。新型コロナから、私たちは何を学ぶのでしょうか。勿論、日本発の三密回避は、3C's (Close space, Crowded place, Close-contact) といわれ、世界中の人々が学んでいます。ただ、もう一つ学んでいることは、「人は、人との触れ合い無くしては、生きていけないということ」かもしれません。自殺者の増加も危惧されます。たとえ、手で触れることができなくても、メールでも、声かけでもいいから、心に触れることを今こそ学ぶ時かもしれません。夫婦で肩をたたきあったり、互いにこっているツボをほぐしあうのもいいでしょう。

## ⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室だよりなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

ご意見



ご希望

&lt;件名&gt;メール登録（医療機関名）&lt;本文&gt;・医療機関住所、電話番号

E-Mail : [c-renkei@eph.pref.ehime.jp](mailto:c-renkei@eph.pref.ehime.jp)

ご自由にお書き下さい！

メールのご登録で…

医療連携懇話会の  
動画配信が  
ご覧いただけます！動画配信  
3つの  
ポイント！①  
好きな  
時間に②  
繰り返し  
再生！③  
3密  
回避

お問い合わせ



愛媛県立中央病院 地域医療連携室 &lt;担当&gt;大矢根・渡部

TEL : 089-987-6270 FAX : 089-987-6271 E-mail : [c-renkei@eph.pref.ehime.jp](mailto:c-renkei@eph.pref.ehime.jp)

シラネアオイ 写真提供：三木 均 室長

次回7月号(No.14)は  
7月中旬頃刊行の  
予定です

お楽しみに！

